

「未来」への責任に向けて

待機児童解消、進む □ □ →

さいたま市では、これまでがんばって続けてきた保育所の整備ですが（下表参照）、厳しい経済状況を反映して、入所希望者が多く、解消できていない状況です。H22年度予算では、これまでにない規模で定員増を図る整備計画となっています。

補助額のアップで市民の皆さんの期待が高くなった家庭保育室・ナーサリールーム（＝さいたま市認証施設）についても、積極整備の方向で、かなりの待機児童解消が期待できます。

○今年度新たに増えた認可保育所定員数（新設・増設含む） → 310名

○来年度から新たに増える認可保育所定員数（新設・増設・増改築含む） → 445名

↑認可保育園の補助額（H22年度予算） ⇒ 12.4億円

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
待機児童数	258人	206人	219人	177人	未発表	目標「0」
認可保育園 施設数	111	115	119	120	124	129
同定員数	9,813人	10,083人	10,383人	10,503人	10,813人	11,258人
家庭保育室・ナ ーサリールーム 施設の定員数	1,406人	1,665人	2,144人	2,488人	2,788人	3,088人

※注：待機児童数の推移（各年度4月1日）

待機児童数は、認可保育園、または家庭保育室・ナーサリールームなどの市認証施設のいずれにも入れなかったお子さんの数。せめて4/1付けでゼロにならなければなりません。



「年をとっても安心して暮らせるまち」へ □ □ →

年をとっても安心して暮らしていくには、具体的にその生活を支える基盤を整える必要があります。平成22年度予算では、次のようなサービスが実施されることになりました。

- ☆ 地域包括支援センターなど年中無休化へ。夜間対応の充実も。
- ☆ ひとり暮らしの高齢者、高齢者のみ世帯への宅配食事サービスの回数の拡充（週4回→週5回へ）
- ☆ シルバー元気応援ショップ制度の創設。（高齢者は市内加盟店での買い物で割引などの優待）

なお、今議会では、「敬老祝い金」制度の変更条例（米寿からの支給）が議論になり、継続審査となりました。制度開始時点から大きく平均寿命が伸びた現在、他政令市でも現さいたま市のような実施例はなく、制度の見直しはやむを得ないものと考えます。一時的な現金給付ではなく、生活の基盤を支えるサービス給付がまさに必要ではないでしょうか。

6月議会は
6/2（水）～
6/25（金）で
開催の予定です。
傍聴お待ちしております！

市政報告会「プロジェクトミーティング」（次回）は8月下旬を予定しています。

（次号の市政レポートに詳細をお知らせします）

編集後記

今年四月に四十一年ぶりの雪が降るなど、気候の異変に驚かされた香りがお過ごしでしょうか。私は、入学式などに参列させていただいたりしながら、来年は選挙中に我が子の小学校入学式だなぁと嬉しいのか苦しいのかわからない胸の内です。

このところ、市政・国政ともに、見ていて痛感するのは、これからの政治の仕事は憎まれ役だなぁということ。もちろん夢も描いていくのですが、どうしても人口減少の高齢社会では、税収の増えない中、必要な福祉サービスの確保の為に、何を諦め、何をがんばらなければいけなくてかというお願いをせざるを得なくなっています。「説明責任」がますます重要となると痛感する今日この頃です。

（高木）